

平成30年度 兵庫県立北条高等学校 学校評価評価項目 最終報告

領域	評価の観点	評価項目	実践目標	評価A	評価B	評価C	評価D	学校評価	部署	30年度の反省と改善策（自己分析）	関係者評価	学校関係者評価(分析)
勤務時間の適正化	1 職員の勤務時間の適正化	毎週月曜日を「定時退勤日」「ノー会議デー」とし、平日1回、週休日1回の「ノー部活デー」を実施し、職員の勤務時間の適正化を図る。	「定時退勤日」に75%以上の職員が定時退勤に勤め、「ノー会議デー」が実施できた。部活動も「ノー部活デー」の完全実施がほぼできた。	「定時退勤日」に50%以上の職員が定時退勤に勤め、「ノー会議デー」がほぼ実施できた。部活動も「ノー部活デー」も半分以上実施できた。	「定時退勤日」に30%以上の職員が定時退勤に勤め、「ノー会議デー」がだいたい実施できた。部活動も「ノー部活デー」の完全実施は半分以上であった。	「定時退勤日」の職員が定時退勤が30%未満で、「ノー会議デー」が実施できないことも多かった。	B	管理職	「勤務時間の適正化」について、教職員の共通理解が進み、「定時退勤日」を意識した勤務が半数以上できてきている。「ノー会議デー」についてもほぼ100%、「ノー部活デー」も大半の部活動で実施できている。また、定時退勤日以外でも、年度当初に比べると超過勤務の時間は減っており、職員のタイムマネジメントに対する意識の浸透がうかがえる。今後はさらなる意識の向上を図りたい。	B	・教職員が忙しい状況は理解できるが、定時退勤日やノー部活動デーの徹底を、さらにお願したい。 ・次年度は年度当初からさらに意識して呼び掛けて欲しい。4、5月の時期をいかに勤務時間の適正化が図れるかが重要である。 ・次年度の評価の数値が、A：80%以上、B：70%以上等に修正して目指して欲しい。徐々に目標を高くして改善を図って欲しい。 ・実際の数字（パーセンテージ）を記入すべき。 ・2019年からの働き方改革関連法の実施を受け、より適正化に留意され業務と教員の健康についてもマネジメントをお願いしたい。 ・勤務時間の適正化については意識の浸透がうかがえる。 ・ある程度はクリアしているようだが、アフタースクールの鍵当番等では確実に退勤時間は遅れ負担は大きくなっている。	
		2 会議の内容精選と時間厳守	会議には事前に資料を配布し、要点を絞って提案し、緊急を要する場合を除いて、原則1時間以内を守る。	資料を事前に配布するとともに内容を精選し、会議時間1時間以内が9割以上守られた。	資料の事前配布をほぼ実施し、内容もほぼ精選し、会議時間1時間以内が7割以上守られた。	資料の事前配布を半分以上で、会議時間1時間以内が守られたのは5割未満しかなかった。	B	管理職	会議資料の事前配布に関してはほぼ実施できており、原則1時間以内の会議も概ね実施できている。今後はさらなる効率化を図りたい。	B	・昨年度よりも評価が下がっており、会議時間1時間の徹底を進めるための工夫をさらにお願したい。 ・会議時間の短縮も困難な状況であると思うが引き続き取り組んで下さい。	
		3 教材等の整理整頓	整理整頓が必要な箇所をピックアップし、種類や使用頻度別に分類・整理を実施する。職員の清掃分担を徹底し、コピー用紙の整理・再利用を促進する。	整理整頓が十分に行われておりコピー用紙の整理・再利用も完全に実施できた。職員の清掃分担も完全に実施できた。	整理整頓がほぼ行われておりコピー用紙の整理・再利用もほぼ実施できた。職員の清掃分担もほぼ実施できた。	整理整頓が行われているのが半数程度であり、コピー用紙の整理・再利用も不十分であった。職員の清掃分担も半数以下しか実施できなかった。	B	管理職	化学教室、生物教室、物理教室、教材室、進路指導室等をはじめとして整理整頓を進めることができた。次年度以降はさらに計画的に整理整頓を進めていく。また、職員の清掃分担も概ね実施できた。	B	・広大な敷地に使用頻度の少ない教室等があり、また長年整理整頓をしてこなかった状況で、大変な作業であったと思います。お疲れさまでした。 ・各部署が有効に活用できるように、さらに整理整頓を徹底されたい。 ・過度の徹底は労働時間の増加につながる恐れもあり、適度の実施が望ましい。 ・職員だけでは清掃の分担は難しいのもっと日々子ども達にも自分たちの学校をきれいにするという意識をもって清掃に取り組んでほしい。	
開かれた学校	4 家庭や地域への情報発信	学校通信を月に1回発行し、本校生徒全員と地元中学3年生および地元地域に配布し、学校の情報を提供する。また、ホームページの充実をはかり、地域に密着した情報発信につとめる。タイムリーな記事にする。	学校通信を年間10回以上発行し、生徒・保護者、市内等中学生に配布し情報発信できた。また、ホームページの更新もこまめにできた。	学校通信を8回以上発行できた。	学校通信を6回以上発行できた。	学校通信を5回以下しか発行できなかった。	B	総務	学校通信は年間9回の発行であり昨年より1回少なかった。また、ホームページは、修学旅行・国際交流等の様子もスムーズに更新し、地域に密着した情報発信ができたが、部活動の様子は一部の部活動を除いては更新されていない状況である。緊急連絡もホームページやなまると連絡帳で適宜行われた。今後もなお、校内の各分掌と連携を密にして、保護者や地域への情報発信に努めたい。来年度は各部活動にもホームページの更新を促していきたい。	B	・ホームページの更新がよくできており、学校の情報がわかるように工夫されている。 ・学校通信は昨年度より発行回数が減っており、評価もBに下がっている。毎月の発行を目指して計画的にお願したい。夏休みの取組などの広報を9月にできるように準備して欲しい。 ・引き続き学校の様子を伝える為の作成に努めてください。 ・ホームページは見る機会が多い。常に最新情報をお願いします。 ・紙面の配布では子供から保護者に届かない。「はなまる」やホームページをもっと利用してもらいたい。行事の写真ももう少しのせてほしい。	
		5 地域との交流	高校生ふさと貢献活動事業を実践するため、地元関係機関との連携を深め、地域の行事、地域福祉施設、地元小学校との交流、ボランティア活動を積極的にを行い、内容の充実を図る。PTAと協力をして”絆プロジェクト”を盛り上げる。	年間12回以上の交流活動やボランティア活動を行った。さらに、生徒が主体的に取り組み、地域との連携を深めることができた。	年間12回以上の交流活動やボランティア活動を行った。	年間9回以上の交流活動やボランティア活動を行った。	年間7回以下しか交流活動やボランティア活動ができなかった。	A	総務	1年生全員を対象にボランティア登録を行い、多くの生徒がボランティア活動に参加できる機会を設けた。人間創造コースや各部活動の新たな取り組みにより、結果として90回以上の活動に多くの生徒が参加した。生徒は地域行事や福祉施設等に向かい主体的に取り組み、様々な体験をしたことで、今後も機会があればボランティア活動に参加したいという意識を多くの生徒が持つようになった。来年度は、クラス数(生徒数)の減少による職員減も考えられるため双方の負担の少なくなるように計画を立てていきたい。	A	・大変たくさんボランティアに多くの生徒が参加し、地域との繋がりを深め、地域に必要な学校となっている。また、参加した生徒にとっても大きな意義があると思うので、今後も継続してほしい。 ・ボランティア活動については、担当教員の負担も大きく、特定の教員に負担があるので、生徒数減少するので、精選や北条高校活性化協議会の支援なども視野に入れ、同様にやっていくことは難しいと感じる。 ・ボランティアをしてもらって当たり前と思っている団体には、そうでないことも伝えつつやめる選択肢もあってもよいかもしれない。 ・行事へのボランティア参加でお世話になっている。イベントでの参加者と生徒の交流をより深められるように依頼者側としても努めていきたい。
		6 中学校との連携	授業力向上や部活動の活性化を目指して中高連携事業を推進する。そのために中学校教員も参加する授業研究会や、中学校の運動部や文化部と本校生が合同で取り組む活動を実施する。	中学校・高等学校教員による本校での授業参観を年間3回以上実施し、その後協議会を開催できた。さらに、中学校での本校教員の授業等、連携を深めることができた。また、中学校との部活動の交流も十分できた。	中学校・高等学校教員による本校での授業参観を年間3回以上実施でき、その後協議会を開催できた。また、中学校との部活動の交流もいくつかができた。	中学校・高等学校教員による本校での授業参観を年間2回以上実施できなかった。また、中学校との部活動の交流が全くできなかった。	A	教務	10月11日に6教科において、県下の高等学校や中学校の教員を対象に公開研究授業を実施した。参観した教員には研究協議会にも参加してもらい、授業に対する意見や中学校での授業の様子などの意見交換を行った。また、参加校の『主体的・対話的で深い学び』を重視した授業の取組状況について意見を交換し、今後の授業に生かされるものであった。今後はより実施しやすい日程の検討が課題である。さらに、様々な部活動で中学校との合同活動ができたので次年度さらに拡大していきたい。	A	・県教育委員会の指定による取組もあり、中学校や高校を巻き込んだ取組が実施できた。 ・教員の努力による授業改善にも繋がり、効果的な取組と感じる。 ・次年度は、評価基準を見直し、さらに次の段階の目標設定をして、中学校へ向かう授業見学や部活動のさらなる交流などを深めて欲しい。 ・今後も中学校との合同活動を通じて北高の良さをPRしていただきたい。	
7 実践的指導力の向上	すべての教員がアクティブ・ラーニングを取り入れた授業改善に取り組む。そのために生徒による授業評価を実施し、自己の授業を客観的に見つめ、授業方法を創意工夫しながら指導力を向上させる。	全教員が年2回以上、生徒による授業評価を実施し、改善ポイントを確認し、授業力向上に取り組んだ。	9割以上の教員が、年2回生徒による授業評価を実施し、改善ポイントを確認し、授業力向上に取り組んだ。	9割以上の教員が、生徒による授業評価を1回以上実施し、改善ポイントを確認し、授業力向上に取り組んだ。	A	教務	全教員が『主体的・対話的で深い学び』の視点を取り入れた授業に取り組む、授業改善に努めた。教科内で研究授業を実施し、意見交換をして授業の改善に努めることができた。また、生徒による授業アンケートを年2回実施し各教員が授業改善のポイントを明らかにした。今後は継続して取り組み、学校全体で教員の資質向上に努めたい。	A	・教員の授業力向上は進んでいると思うし、成果も出ていると感じる。 ・学習指導要領の改訂を踏まえて、他校より先行して授業の工夫に先進的に取り組んで欲しい。 ・先生の気が付かないポイントを生徒のアンケートで改善する。いい取組です。			

領域	評価の観点	評価項目	実践目標	評価A	評価B	評価C	評価D	最終評価	部署	30年度の反省と改善策（自己分析）	関係	学校関係者評価（分析）
学校運営	生徒指導	8 生徒指導体制の確立	生徒指導方針を教職員で共通理解し、生徒の現状や保護者の思いを理解しながら毅然とした生徒指導を行う。	情報を共有し、共通理解のもと教職員が一丸となって生徒指導にあたり、生徒・保護者に十分理解を得るなど、成果を上げた。	共通理解のもと、生徒・保護者に対して説明責任を果たし対応できた。	共通理解のもと対応できた。	十分な対応ができなかった。	A	生徒指導	生徒の情報を職員会議ごとに職員間で共有し、共通理解ができた。昇降口ホワイトボードを設置し生徒指導上の注意喚起を促進した。生徒指導上のルール変更についても積極的に見直すことができた。生徒のニーズに合わせた制服規定の大幅な改正を行った。	A	・教職員による生徒の情報共有が図れている。 ・昇降口でのホワイトボードの設置も効果的である。 ・生徒のニーズに合わせ、制服検討委員会を設置して制服の規定の改定をスムーズに行ったのは、素晴らしい。他校ではなかなかできていないので、 ・生徒のニーズを優先する本校の取組を、いかに中学校等へ広報するかも大切であるとする。
		9 学校行事の充実	文化祭、体育大会、球技大会等の学校行事において、生徒が競い合いながら成長していけるよう教師がサポートし、充実した学校行事をつくり上げる。生徒会活動をさらに充実させた。	生徒達がいきいきと参加し、協調性向上や自己有用感を得るなど、行事を通じて大きく成長できた。生徒が前面にたつて行事を企画運営が出来る。	生徒達がいきいきと参加し、行事を通じて生徒の成長が見られた。生徒会が前面にたつては至っていない。	生徒達が参加し、行事を成功させることができた。生徒の活動がさらに増やしたい。	行事を通じての生徒の成長は見られなかった。	A	生徒指導	学校行事については、年々盛大になっており、生徒もいきいきと参加できている。生徒会役員が各行事でリーダーシップを発揮し、よりよい行事の企画・運営ができた。	A	・卒業生が北条高校での一番の思い出に学校行事をあげていることから、生徒にとって自己有用感を高める取組の成果だといえるので、今後も企画運営をよろしく願います。 ・教職員の学校行事に対する思いも、以前よりも熱意が入り生徒に伝わってきた結果だと思う。 ・他校にない、盛り上がった学校行事を中学校にも広報して、受験者獲得につなげて欲しい。 ・学校行事については生徒会が前面に運営をしそれを先生が見守ってほしい。 ・生徒数が減りスケールが小さくなりますが小さいなりに充実した行事に期待します。 ・学年が上がるごとにクラスの協調性、絆が強まっているように見られた。
		10 いじめ対策の確立	本校の「いじめ防止基本方針」を見直し、学校評価の一つとして点検や検証に努める。「基本方針」について、生徒や保護者にも説明をする。学校の組織的対応を徹底する。教職員のいじめた硫黄能力の向上につとめる。ネットいじめへの対応を充実させる。いじめの未然防止、早期発見、早期対応に向けた取り組みを強化する。	いじめ防止基本方針を見直し、生徒の状況把握、対応が十分できた。また、全職員で情報共有し、共通理解のもと対応ができた。その結果、生徒が安心して学校生活が送れている。	いじめ防止基本方針の改定は行い、ほとんどの生徒が安心して学校生活を送っている。また、全職員の情報共有、共通理解も行われている。	いじめ防止基本方針の改定したが、いじめ事象が少なかったため、対応委員会送っている。必要に応じて実施したのみにとどまった。安心して学校生活を送っていない生徒も複数いた。また、全職員の情報共有、共通理解も行われている。	いじめに対する十分な対応ができなかった。安心して学校生活を送っていない生徒が多かった。	A	生徒指導	本校の「いじめ防止基本方針」に基づきいじめの早期発見と対応ができる体制を目指している。いじめアンケートを年間3回実施し、学校生活に不安や不満を抱えている生徒へ必ず面談を行い生徒理解に努めた。これからは生徒が安心して学校生活が送れるようにしていきたい。	A	・いじめ防止基本方針を昨年度に大きく見直したが、それが教職員へ共通理解できているかが疑問であるが、共通理解できているのであれば、教職員が入り替わっても伝えて継続して欲しい。 ・教職員が生徒に寄り添う姿勢が、結果として生徒の落ち着きに繋がっていると思う。 ・結果が書かれていない。 ・いじめは生徒にとっては深刻な問題です。引き続き早期発見と対応をお願いします。 ・子どもの口から「北高は喧嘩やトラブルはあってもいじめはない」と聞いた。思いを伝える機会、場もあり省職員の方々のサポートで対話し解決する思いやる雰囲気根付いているのだろう。
	進路指導	11 職業観・勤労観の育成と進路意識の向上	インターンシップ、大学見学会、職場見学会などを充実させ、社会の中での自己役割を考えさせる中で職業観・勤労観を育成し、進路意識を向上させる。	インターンシップ、職場見学会等を希望する生徒が参加できた。大学見学会、講演会、キャリアガイダンス等を企画し、進路意識向上への支援に十分つながった。	インターンシップ、職場見学会等を希望する生徒のほとんどが参加できた。大学見学会、講演会、キャリアガイダンス等を企画した。	インターンシップ、職場見学会等を実施できなかった。大学見学会、講演会、キャリアガイダンス等を企画した。	A	進路	大学出張オープンキャンパス、大学見学、インターンシップ、卒業生を招く会などの進路に関する行事を通じて、生徒たちの職業観や勤労観の育成および進路意識を喚起することができた。今後は、本校生がより充実できるものを模索していかなければならない。次年度も学年と進路指導部で連携を取り、充実した進路指導ができるようにしていきたい。現代の高校生たちはまだまだ勤労意識が乏しい一面があるので、幅広い視野を持ち、進路選択の幅を広げ、自己の進路に向かって自信を持って歩めるように計画を立てていきたい。	A	・インターンシップや職場体験等を多く実施している。生徒の勤労観に結びつける取組をさらにお願したい。 ・昨年度までふるさと貢献活動、県立高校特色づくり推進事業の一環で2年連続で実施していた、コース1年生による兵庫教育大学やパナソニック工場の見学会が中止されたので、次年度の実施を検討する意義がなくて中止されたのであれば別の形の事業にするかの検討をお願いしたい。 ・将来の職業観に大いに役立つため引き続き様々な分野で取り組んで下さい。	
		12 進路実現に向けたサポート体制の確立	生徒個々の進路希望に応じた補習や個別指導、進路ガイダンスを充実させ、意欲を持った生徒の学びを支援する。	全学年において、進路講演会、ガイダンス、進路面談を計画通り実施できた。また、平日補習・夏季補習等を積極的・計画的に実施し、学力支援が十分できた。個々の生徒の進路に応じた支援ができた。	全学年において、進路講演会、ガイダンス、進路面談を計画通り実施できた。また、平日補習・夏季補習等を積極的・計画的に実施し、学力支援が十分できた。	進路講演会、ガイダンス、進路面談を一部に実施した。また、平日補習・夏季補習等を積極的・計画的に実施した。	A	進路	生徒への進路実現に対して学校全体で取り組むサポート体制は確立してきている。職員全体で取り組む意識も高くなってきた。しかし、まだまだ教員個々の能力を発揮させてはいない。これまでの体制に甘んずることなく、教員の資質を高めていき、教員全体が自信を持って進路指導できるように、日々の情報交換や進路研修会、教員同士のサポート体制などを、さらに整えて、生徒一人ひとりの進路実現に向けて本校のサポート体制を一層充実させていきたい。	A	・全教職員で取り組む体制は素晴らしいと思う。 ・補習等についてもお疲れさまでした。 ・学校とは別の主催ですが、アフタースクールゼミの受験コースの見直しを、生徒や学校のニーズに合わせた大きな変更が必要である。アフタースクールゼミを有効に活用できれば、進路に向けたサポートも大きいし、教員の負担軽減にも繋がると思う。 ・まだまだ教員個々の能力を発揮させていないのであればB ・生徒の進路希望をできるだけ尊重するとともに将来の個人のあり方をふまえた指導をお願いします。	
	教育課程	基礎基本の定着	13 基礎学力の向上	アクティブ・ラーニング型授業等を実施する中で、授業の中で生徒が主体的に学ぼうとする態度を育て、まじめにこつこつと学習に取り組む習慣を身につけさせることで基礎学力を向上させる。	小テスト、課題演習などを計画的に取り入れ、生徒が主体的に取り組む姿勢が大いに見られ大きな成果が得られた。	小テスト、課題演習などを計画的に取り入れ、生徒が主体的に取り組む成果が得られた。	小テスト、課題演習などを計画的に取り入れ実施できたが、生徒の主体性が十分ではなかった。	A	教務	各学年とも朝のSHRで英語・漢字等の、また授業中には各教科で小テストを実施し、多くの生徒が基礎学力を身につけた。頑張った生徒にはPOWER UP賞を授与し励みになっているが、不合格者も少なくない。『主体的・対話的で深い学び』を重視した授業の研究結果により授業中に生徒自身が活動する時間が増加しつつある状態を継続し、今後は自らの進路目標を見据えた自発的な学習習慣の定着に繋げていきたい。	A	・生徒が主体的に学習に取り組んでいる状況は大変素晴らしい。授業の受講態度も、北条高校と同じ学力の高校よりもずっと素晴らしい。 ・昨年度のB評価から向上しており、成果が見られたことは素晴らしいことである。 ・小テストや課題演習を、生徒の学力向上にいかにつけていくか、各教科、学年で話し合ってから向上して欲しい。
			14 生徒の希望や学力に応じた指導の徹底	生徒の進路希望や学力に応じた、きめ細かな習熟度別クラス編成・少人数指導・個別指導を推進する。また、全教員による個別指導を実施して生徒の進路実現をサポートする。	習熟度別授業、少人数指導、個別指導を積極的に実施し、大きな成果が得られた。また、全教員による個別指導が有効に実施できた。	習熟度別授業、少人数指導、個別指導を実施した。また、教員のほとんどが個別指導を実施した。	習熟度別授業、少人数指導、個別指導を実施した。また、教員の多くが個別指導を実施した。	A	教務	1年生では数学・理科・英語で、2年生は数学・英語で、3年生では英語・理科で習熟度別授業を実施して、生徒の理解の程度に合わせた授業の展開に努めている。また、2、3年生では多くの選択科目を開設し個々の進路目標に応じた少人数指導を実施することができた。生徒の学習状況や生活実態調査なども参考にして、次年度以降も効果的な選択群や選択科目の構成を考え、生徒の現状に応じた指導ができるよう常に心がけていく。	A	・習熟度別授業は効果的に機能していると思う。また、ALTを最大限に活用した外国語科の授業も大変効果的である。 ・校長自ら補習を実施する取組も、生徒にとっても他の教員にとっても意義が大きいと思う。 ・教員に質問しやすい体制を、個別指導等でさらにやって欲しい。
		15 新学習要領にもとづいた効果的な教育課程の編成	現在の学習指導要領にもとづいた教育課程を実践しながら、次期学習指導要領を見据え、生徒の実態を把握し、進路実現を可能にするため、常に点検を怠らずより良い教育課程の編成を目指す。	教科会等で十分に討議を行い、毎月のカリキュラム委員会において調整し編成できた。生徒の進路目標、実態に応じた教育課程が編成できた。また、新学習要領の主旨を十分に反映させたものとなった。	教科会等で十分に討議を行い、毎月のカリキュラム委員会において調整し編成できた。生徒の進路目標、実態に応じた教育課程が編成できた。	十分とは言えないが、目標の7割以上は織り込んで編成できた。	十分な議論がなされず、従来通りの教育課程をそのまま引き継いだ。	A	教務	開設から3年目となり、完成年度を迎えた人間創造コースの教育課程の見直しや生徒の現状に応じた学校設定教科・科目および選択科目の設置について、各教科や学年と十分に議論して教育課程を編成した。大学入試における受験科目の変更等も考慮して、生徒の進路目標達成に向けて最善の教育課程の作成を実践している。	A	・毎年見直しして、実態に応じた教育課程になっていると思う。 ・人間創造コースの卒業を迎えた3年間を、客観的に振り返り、効果が高く継続するもの、内容の見直しが必要なものなどを検討し、平成34年度からの学習指導要領の改訂を踏まえた教育課程の見直しを今から進めて欲しい。 ・総合的な探究の時間への移行を踏まえて、今の形をさらに発展させて欲しい。探究活動は素晴らしいが、中学生への説明では負担感が大きいと敬遠されているのかもしれない。

領域	評価の観点	評価項目	実践目標	評価A	評価B	評価C	評価D	最終評価	部署	30年度の反省と改善策（自己分析）	関係者評価	学校関係者評価(分析)
課題学習	人権教育	16人権教育への取り組み	各学年・部と連携して、標準化された人権HR指導プラン及び道徳教育の全体計画を、作成し実施する。従来からの課題に加えて、最近提唱されたり注目されるようになった新しい人権課題についても、研修を通して認識を深める。	年間計画に沿った人権教育に関するHR及び研修を計画通り実施できた。	年間計画に沿った人権教育に関するHR及び研修を9割以上実施できた。	年間計画に沿った人権教育に関するHR及び研修を8割以上実施できた。	年間計画に沿った人権教育に関するHR及び研修を8割未満しか実施できなかった。	B	人権	各学年・部と連携をとり、ほぼ年間計画に沿って人権教育を進めていくことができた。LGBTの問題については、従来より懸案となっていた生徒及び教師向けの講演を実施し、多くを学ぶことができた。カミングアウトを前提として、当該生徒の人権に配慮した体制を築くことが今後の課題である。また、自殺という不測の事態を予防するためにできること、またしなければならないこと等について職員研修を実施し、理解を深めることができた。部落問題、多文化共生に関する人権問題にも、今後取り組みを強化していく必要がある。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度からのB評価が改善されていないので、実施できる年間計画を作成して欲しい。 ・小中学校では、道徳教育の教科化が実施されることになっていますが、それに伴った高校としてのあり方をふまえて実施してください。 ・難しい課題ですが根気よく取り組んでください。
	人間創造コース	17教育類型及び人間創造コースの充実	人間創造コースの特色ある学校設定科目を通して、体験活動を充実させるとともに、主体的に課題解決に取り組む姿勢を身につけさせる。また、地域に根ざした活動を通して、生徒にふるさとを愛する気持ちを育み、ふるさと貢献活動を積極的に行う。加えて、人間創造コースの魅力・特色を充実させる教育内容を取り入れ、生徒が活動を通して、人間力や、コミュニケーション能力を向上させられるような取り組みを行う。	特別非常勤講師などを積極的に前年度以上に十分に活用し、特色ある科目を実施し、体験活動も非常に充実させることができた。また、地域に根ざした活動にも積極的に取り組むことができた。	特別非常勤講師などを前年度よりも活用した特色ある科目を実施し、体験活動や、地域に根ざした活動も実施できた。	特別非常勤講師などを前年度程度に活用した特色ある授業を少し実施できた。また、地域に根ざした活動も行うことができた。	特別非常勤講師の活用が前年度未満で人間創造コースの特色を活かす授業等を実施できなかった。また、地域に根ざした活動も行うことが出来なかった。	A	コース委員会	<p>大学教授による出前授業や、特別非常勤講師活用講座に加えて、地域の大人のボランティア参加によるキャリアガイダンスを実施し、生き方を考え、興味関心・学ぶ意欲を向上させる取り組みを行った。また、地域の小学校を訪問し、絵本読み聞かせ、ゲームを通じた楽しい英語学習や理科実験講座を行うなど、積極的に地域に根ざした活動を行ってきた。さらに、これに加えて加西市教育委員会主催の子どもアドベンチャークラブのスタッフとしてキャンプや遠足のボランティアに参加したり、オークタウン主催の加西英語村のリーダーとして活躍するなど、幅広い活動を行ってきた。夏休みには、進路目標に向けてインターンシップに参加し、病院実習や学童保育にもチャレンジした。</p> <p>探究活動で地元行事やボランティア活動に積極的に参加し、加西市の活性化に貢献するなど、名実ともに、充実した取り組みを行うことが出来た。3学年が揃い、タテの連携を密にしながら、持続継続して行える活動を増やし、コースの特色にしたい。また、3年生は探究論文を作成し、本校の人間創造コース教育活動3年間の記録を可視化することができた。今後も持続継続の上に、時代のニーズに合わせた取組を行いたい。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・特別非常勤講師の積極的かつ有効な活用ができ、地域に貢献する活動ができている。 ・コースの充実も図られ、生徒の成長が大きく感じられる。 ・コースの3年間の取組は成功であったと思う。 ・コース1期生が卒業したことを機会に、同じスパンの継続ではなく、継続・修正・検討を早期に話し合っ、より魅力あるコースづくりに取り組んで欲しい。 ・加西市内の4中学校から、選ばれるコースになるように、上手に広報して欲しい。 ・人間創造コースが学校全体を引っ張るような働きになっていると報告を聞き大変たのしく思います。 ・学力も重要ですが、ボランティア活動など将来必ず役に立つはずだ。 ・外部、特に中学生及び保護者には理念が分かりにくい様子で「進学コース」と混同されている所もある。理解してもらうためのアピールは課題だと思ふ。
	国際理解教育	18国際交流事業の推進	交流事業を組織的に推進し、国際理解を深め、広い視野を持った生徒を育てる。また、学校行事の中で、国際交流事業の成果を全校生徒に還元していく。	タイ王国、オーストラリアとの国際交流を積極的に行ない、交流の成果を全校生徒を対象とした成果発表会を実施し還元した。タイ王国、オーストラリア生徒の受け入れにおいて、全校生との交流活動が十分にできた。	タイ王国、オーストラリアとの国際交流を積極的に行ない、交流の成果を全校生徒を対象とした成果発表会を実施し、全校生徒に還元した。	タイ王国、オーストラリアとの国際交流を積極的に行なったが、全校生徒に対する成果の還元ができていなかった。	タイ王国、オーストラリアとの国際交流を前年以上に積極的に行えなかった。また、全校生徒に対して成果の還元が不十分であった。	A	国際交流	オーストラリア研修はより充実したものとなった。現地ではプレゼンテーションを行い、英語での意見交流を行った。また、他校と合同のタイの国際交流にも積極的に参加した。タイの生徒を受け入れた時には、歓迎集会を催したり、特別な時間割を組んで対応した。交流に参加した生徒だけでなく、全校生徒と関わる機会を持つことができた。非常に良い国際交流ができた。3月に1ヶ月のオーストラリア研修も実施する。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流が積極的に行われ、参加生徒の成長も大きく感じられる。 ・参加生徒以外にも、意義ある活動になるように、さらに工夫をして欲しい。 ・国際理解を深め広い視野を育てるので今後も続けてほしい。 ・グローバルな人間形成はこれからますます必要になってくると思う。日本人の良さを大切にしつつ、世界に通用するインパクトある人間形成をしていただきたい。